



ほらっちゃん

特集
テーマ

違いを越えて伝え合う

平成27年1月20日発行(昭和51年12月1日発刊)



梅野記念絵画館 職員 ユウコ さん

視覚障がいがある人と美術館に…… 見えない人がどうやって見るの？

東御市梅野記念絵画館で
ボランティアを体験しました。

今日はみんなで、
絵について自由に
おしゃべりをしながら
絵を見ていきましょう。

思ったことを
どんどん言ってね。

東御市立
北御牧中学校
の皆さん

この絵の中では
何が起きている？

後ろは鏡かな。
テーブル上の電気が
映ってるんじゃない？

本当だ!!



ひまわりの絵です。

花の後ろに入道雲が
4つありますね。

夏の終わり
のかな。

花の大きさは、
グーチョキパーの
「パー」くらい。

頭を垂れて、
色もくすんでる。

一緒に楽しみながら
見えない人のことを
知ることができて
いいですね。

一緒に見て
歩いた方々

広沢里枝子 さん

子どもの頃から少しづつ視力が
落ち、26歳の頃に全盲に。
現在はラジオパーソナリティ、
長野大学講師、障害者自立支援
センターのカウンセラーなどと
活躍されています。

情景が浮かんで
楽しかったです。

見えない人と
一緒にいるときは、想像力を
たっぷり動かして
みてください。

熊野 みよ子 さん

美術館ボランティア

山浦 勉 さん

高校生18歳の頃、弱視と診断。
その後、盲学校で鍼灸マッサー
ジ師の資格を取得。

誰かの働き、
誰かの提案で、
いろんなイメージが
わいてきますね。

楽しかったね!



迫力があるなあ。
引きずる音がしる。

横の人たちが
何人も、大きな
魚を運んでる。

光があつたかい、
やわらかい感じ。
午後だと思ふ。

一人だけ、
こっちを見ている。
何かに気が
付いたのかな？

人の身体より
大きい!

「対話型鑑賞」とは

おしゃべりしながら
絵を見ることを、
「対話型鑑賞」と言います。
この方法だったら、
見えない人と一緒に
絵を楽しむことができますね。

見えなくても、
自分の目で見て
作ります。

絵を見た後は、一緒に陶芸も楽しみました。



「陶芸」なら、ちょっとした
サポートがあれば
同じようにできますね。

●東御市梅野記念絵画館・ふれあい館
浅間連山の麓にある東御市の美術館です。自然に囲まれた静かな環境に、青木繁をはじめ、近代日本洋画
を中心としたコレクションを収蔵展示。対話型鑑賞をはじめ、ワークショップなど多数開催しています。

「見える人」と「見えない人」のように、 私たちは「違い」を持つ人と 一緒に生きています。

障がいがある人は「できないことがある、
だから大変な、特別な人」と思っていますか。
けれども、こうして一緒に歩いてみると、
少しの工夫で同じように絵を楽しむことができました。
そして、自分と違うものの見方をする人と話することで、
今まで気づかなかったことにも気づきました。
違いを超えることは、とても楽しいことなのです。

「違い」を超えるポイント

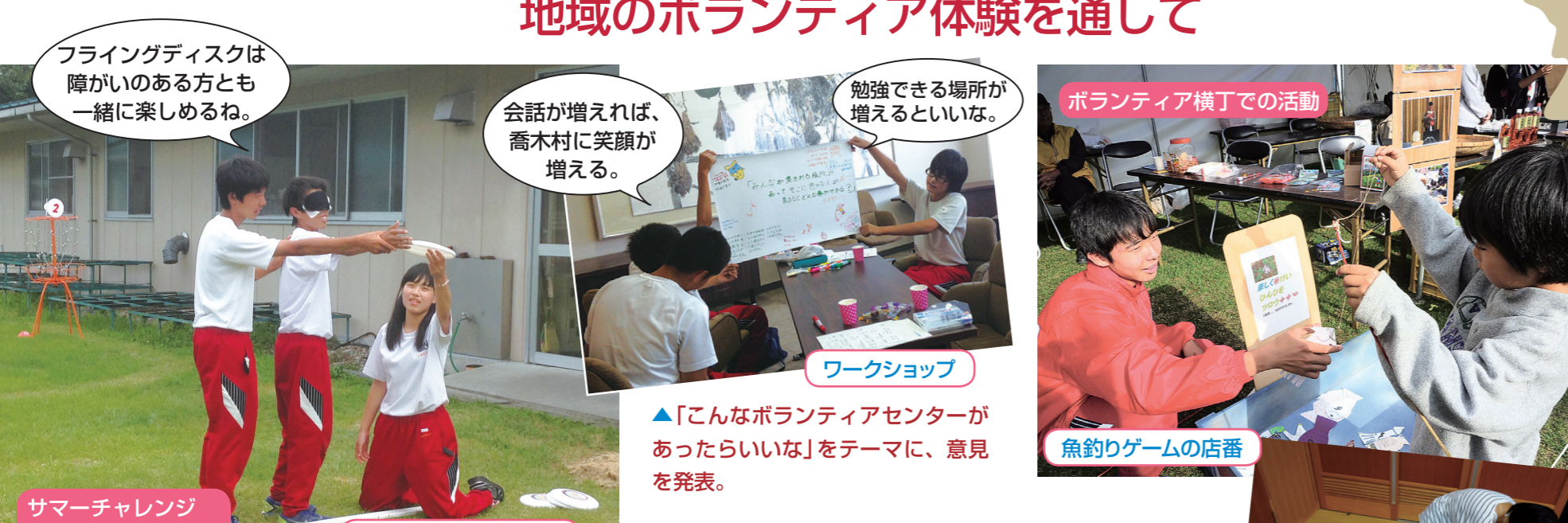
- 1 共通の目的を持って一緒に何かをしよう
一緒に何かをする。スポーツなどで仲間に。
- 2 相手のことを想像して、工夫しよう
どうしたらできるかな？ 伝えるかな？
- 3 間違いを恐れない
失敗したら、ごめんなさいと言えらばいいのです。
感じ方は人それぞれ。「正解」は一つじゃない。

各校のボランティア・地域活動の紹介

喬木村立 喬木中学校

仁慈 ~情けは人の為ならず~

地域のボランティア体験を通して



喬木中学校は、「仁慈～情けは人の為ならず～」という校友会(生徒会)テーマのもと、各委員会が様々な活動を行っています。
福祉サイクル委員会では、毎年、喬木村社会福祉協議会と喬木悠生寮(障がいがある方の施設)の主催による「サマーチャレンジボランティア」に参加しています。今年も、小学生との交流、障がい者スポーツ体験、飯田人形劇フェスタのスタッフ、村のボランティアセンターを考えるワークショップなどの活動をしました。
10月には村の文化祭で開催された「ボランティア横丁」に、ボランティアグループの方々のお手伝いとして有志40名が参加しました。地域の方々には、「中学生の元気でその場が明るくなる」「これから期待している」という、嬉しい声をかけていただきました。
はじめは「委員だから」「友だちが行くから」という何気ないきっかけで参加しましたが、終えてみると、「自分がしたことで誰かが喜んでくれるのは嬉しい」と思いました。
地域の方々と関わることを通して、「情けは人の為ならず」ということを実感しました。

私たちの学校では、 こんな活動をしています。

高山村立 高山中学校

未来をつくる中学生議会

故郷を担う私たちの取り組み



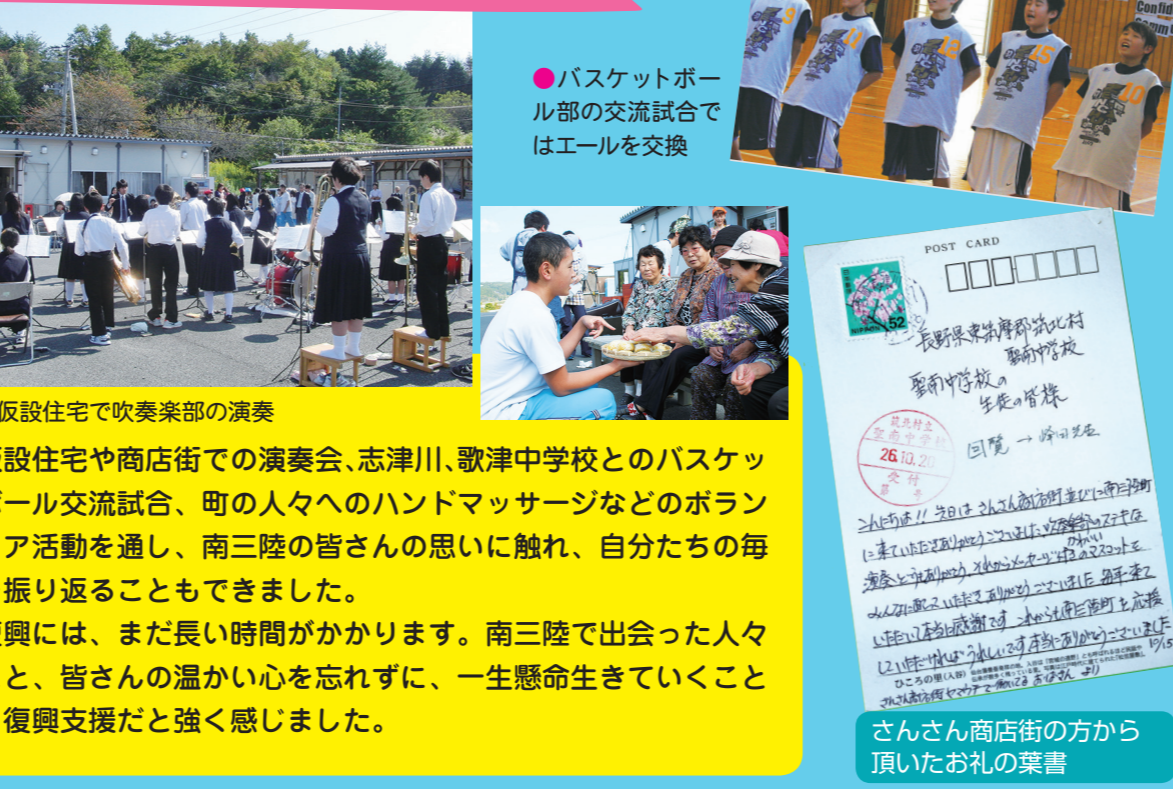
高山中学校の「中学生議会」は、全校生徒が議員となり、高山村の未来に向けて直接意見や要望ができる場です。平成10年からほぼ毎年開かれています。議長は生徒が務め、実際の村議会と同じ形式で村長さんや村議員さんたちが出席し、生徒の発言に答えて下さいます。
議会で提案することは、総合的な学習の時間に「故郷高山村」をテーマとしたフィールドワークで感じたことを出し合い、学年ごとに話し合って決めます。ワイン用ぶどう農家を訪ねたグループは、村おこしのためにワインを特産とした観光振興策などを提案しました。
これまでもさくら街道の整備など、「中学生議会」の提案に応じて実現された例は数多くあります。自分たちで高山村のために考え、提案したことが実現するのは、とても嬉しいです。
これからも「中学生議会」をさらに盛り上げ、故郷の未来の担い手として、大好きな高山村のことを考え続けていきたいと思います。

あの日を忘れない! きささげ夢プロジェクト 被災地訪問



全校生徒73名の聖南中学校では、平成24年度から「きささげ夢プロジェクト 被災地訪問」という、宮城県南三陸町の皆さんとの交流を行っています。3年目の今年は10月11日～12日に、吹奏楽部、男子バスケットボール部と、有志ボランティアチームの合計43名が訪問しました。
●ボランティアチームによるハンドマッサージ「手のぬくもりが嬉しいんだよ」
●仮設住宅で吹奏楽部の演奏
仮設住宅や商店街での演奏会、志津川、歌津中学校とのバスケットボール交流試合、町の人々へのハンドマッサージなどのボランティア活動を通して、南三陸の皆さんの思いに触れ、自分たちの毎日を振り返ることもできました。
復興には、まだ長い期間がかかります。南三陸で出会った人々のこと、皆さんの温かい心を忘れずに、一生懸命生きていくことが、復興支援だと強く感じました。

筑北村立 聖南中学校の取り組み



●バスケットボール部の交流試合ではエールを交換
●仮設住宅で吹奏楽部の演奏
仮設住宅や商店街での演奏会、志津川、歌津中学校とのバスケットボール交流試合、町の人々へのハンドマッサージなどのボランティア活動を通して、南三陸の皆さんの思いに触れ、自分たちの毎日を振り返ることもできました。
復興には、まだ長い期間がかかります。南三陸で出会った人々のこと、皆さんの温かい心を忘れずに、一生懸命生きていくことが、復興支援だと強く感じました。

18歳までの子どもがかけられる「子ども専用の電話」

チャイルドライン

フリーダイヤル 0120-99-7777

困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。

★ちょっといいにくいことも、名前は言わなくていいので安心して話してください。

★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。

みんなにカードが届くよ。フリーダイヤルでかけてね!

チャイルドラインは皆さんの赤い羽根共同募金が設立されています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう!

●発行/お問い合わせ ● ふれあいネットワーク

社会福祉法人
長野県社会福祉協議会

〒380-0928 長野市若里7-1-7 県社会福祉総合センター内
TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
電子メール vcenter@nsyakyu.or.jp
ホームページ http://www.nsyakyu.or.jp

公益社団法人 信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町1098 TEL.026-232-6994
ホームページ http://www.shinkyu.or.jp/

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDFファイルとしてダウンロードできます。どうぞご利用ください。
<http://www.nsyakyu.or.jp>